公共空間のＳＦ（ストリートファニチャー）調査研究

安田直美・豊田修身
企画・デザイン部

Investigation Study of Street-Furniture in Public Space

Naomi YASUTA・Osami TOYODA
Planning & Design Division

要旨

個人の住宅やインテリアといった生活環境が快適なものに整えられるにつれ，人々の快適性（アメニティ）の追求は屋外空間にも向けられてきた．大分市もエポックメーキングな建築を保存するか否かの論争が起き，話題になったように，建築，街路，ストリートファニチャーといった公共空間を形成する要素のデザインにも関心が高まってきた．

そこで，都市空間に設置されているベンチ，屑籠，スモーキングスタンド，看板，街路灯，モニュメント等々をストリート（通り）のファニチャー（家具）としての観点から，設置状況や利用状況等の実態調査を行った．今後の県内資源や素材を活用したＳＦ開発の可能性を追求すると共に生活者の立場に立ったデザインガイドラインの作成のためのデータとした．

1．はじめに

これまでモノを作る立場に立ったデザインに携わってきた私たちは，そのモノが置かれる環境や背景にあまり関心をはらってこなかった．特に工業的にモノを作る分野のデザイナーは，単品としてのモノをデザインすることのは多くの労力をかけて優れた製品を生んできたが，そのモノが置かれる空間や環境まで含んでデザインを考えてこなかったことは否めない．

当センターのデザインセクションは，一般の人達が，デザインを身近に意識し，自分達の意志で地域の環境を創造していくことを支援していきたいと考えている．
公共の空間に置かれ，道具としての機能が求められるＳＦを研究することにより，地域で活動するデザイナーが作り手と使い手とのインターフェースの役割を再認識すると共に，一般の人達も，デザインを身近に感じ，ＳＦのデザインを自分達の問題として捉えてくれると考えている．

2．研究内容

ＳＦのデザインで特に求められるものは，「環境との調和」と「道具としての機能」の２つである．前項は「モノと空間」との関係，そして後項は「モノとヒト」の関係である．この２つの関係をバランスよくデザインすることがＳＦには求められているのである．本調査研究では，その２つの視点を持って，様々なＳＦをスライド撮影し，分類，分析して研究資料として記録した．調査は，国内留学研修で東京に２カ月間滞在し，デザイン事務所で研修した際に，研修テーマの一つとして，東京及びその近郊で実施した．

なお，都市はその土地が育んできた歴史，文化，風土により様々な雰囲気や表情をもっており，その中に設置されるＳＦは，その雰囲気や表情とは無関係ではありえないので，調査に当たっては，町の表情に違いがあって区別しやすいところを選択して，置かれた雰囲気がわかりやすいようにした．

また，それぞれの異なった歴史や文化や風土の中にＳＦが上手く生かされている部分を調査するばかりでなく，逆にあまりうまく生かされていない部分についても調査し，記録した．

2.1　調査項目

調査資料のスライドは，まず多数収集することが必要と考えて作業を進めたが，今後いろいろな角度から分析ができるように「スライド番号」，「撮影月日」，「撮影場所」，「物品名」，「分類」，「備考」等を最小限の調査項目として記録を行った．

撮影にあたっては「道具（素材）と空間と人」の関係に留意した．まず，まち並みや通りの様子，そして人の動きを記録し，次に，サインを含むＳＦを素材やデザインに注目して撮影した．そして，できる限り，モノだけ

でなく人を交えて撮影し，人との関わりや空間の全景がわかるようにした．

2.2　具体的な調査地

ＳＦは当然のことながら置かれる空間の機能によってデザインも異なってくるので，調査スペースは下記のような幅広い公共空間を取り上げた．

- 公園（上野公園，小金井公園等）
- 駅周辺部
- 街中の小さな公園（ヴェストポケットパーク等）
- ニュータウン（新しい街並み）
- 歩道と車道が分離する立体交差地
- 商店街
- ショッピング・モール
- 市場
- 下町（古い町並み）
- 照明のある空間（夜間）等々．

具体的な調査地域としては，下記のとおり．

東京都では，

－目黒（住宅地）
－巣鴨（下町・おばあちゃんの原宿）
－浅草（下町の商業地）
－隅田川沿い（下町）
－上野（上野公園）
－表参道（明治神宮，商業地）
－六本木（新しさと古さが混在する街）
－世田谷区用賀
（用賀プロムナード，世田谷美術館　砧公園）
－晴海（大型複合施設）
－新宿（新宿御苑周辺）
－自由が丘（商業地）
－三軒茶屋（都心と郊外の中継点）
－立川市（ファーレ立川：商業地）
－築地（市場）
－臨海副都心（開発中都市）等で

千葉県では

－幕張（大型複合施設）

埼玉県では

－川越市（小江戸情緒）
－川口市（鋳物の町の駅周辺）

神奈川県では

－鎌倉市（成熟度の高い街）
－横浜市（港で未来を創った街）

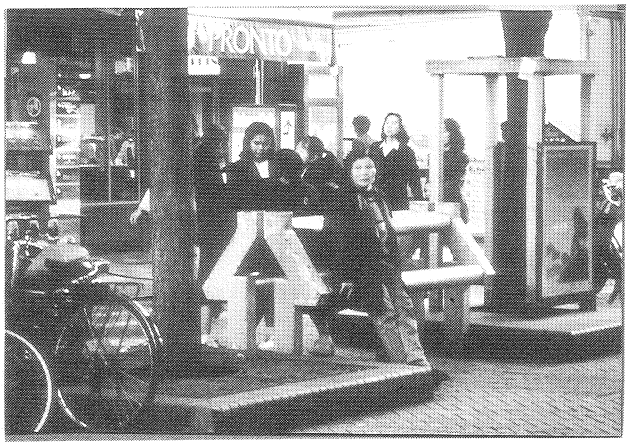
茨城県では

－鹿島町（鹿島神宮）

等である．

2.3　記録方法

記録は約１０００枚のスライドに収めると共に，前述の調査項目を下記のような項目に整理・記録して，データベース化した．（Fig.1）



スライド番号	Ｎｏ．４４４
撮影日時	平成７年１１月１０日
撮影場所	横浜市伊勢佐木町通り
調査品名	もたれ型ベンチ
分類	ベンチ類
備考	コンクリートとステンレスパイプ

Fig.1　サンプル写真と調査項目

3.考　察

調査後に分類，分析の作業にかかり，まず，記録したスライドフィルムから，道具（装置）や空間，人等の特性を見いだし，分類をした．

まちのタイプを分類していくことは難しいが，大きく分けると歴史的地区，近代的地区，再開発地区等に分けられる．また，同じ街の中でも目的が明確な空間とあいまいな（ファジーな）空間に分けられる．

分類をしていく中で，今後のＳＦ開発の提案に参考になるいくつかの結果を得たので，考察を加えて記す．

①一つのストリートファニチャーを取り上げてみて，それをいくつか見ていくと，そのモノに係わる空間とその空間（あるいは，モノ）に係わる人の動きを知ることが出来る．

②ＳＦは，各種素材で様々な形態に作られているが，設置されてから時間が経過したものの中には，メンテナンスが施されず，公共空間にふさわしくないものがある．

③人との関係で利用度が推し量れるが，素材を自然素

材と人工素材とで比較しながら見ていくと，自然素材の利用度が高いことがわかる．

④ストリートのみを見ていくと，下町などで情緒を残すところに面白さがある．例えば，町として成熟度が高い古い住宅街では，通りが見渡せないという「角を曲がる」楽しさがあるが，ニュータウンではそういう面白味はない．

⑤都市が近代化される以前の公共的な建築物や空間に学ぶべき点が多い．例えば，明治神宮や鹿島神宮等の神社では鳥居をくぐると日常の空間から非日常の空間へと移り，参道がその心の準備をする仕掛けを有することなどは，今日のＳＦのデザインのみならず，ストリートそのものをデザインしていく上でも参考になる．

４．　終わりに

今年度は，ＳＦの置かれた現状を調査することにポイントを絞って研究した．現場主義に徹した調査研究であったが，いくつかの貴重な成果も得られた．

考察の④や⑤のように近代以前の空間や通りが現代のＳＦには欠けているものを教えてくれているという事実は今後の研究提案にも生かしていきたいと考えている．